



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

しらこぼと

2004.5

No.241

日本野鳥の会 埼玉県支部

S H I R A K O B A T O



南米ギアナ高地の鳥類報告

海老原美夫（さいたま市）

●独自の進化の世界

ベネズエラ、ブラジル、ガイアナの3国にまたがる日本の1.5倍の広さのギアナ高地には、垂直の絶壁に囲まれたテーブルマウンテンが100以上あります。その独特の地形を、写真やテレビなどでご覧になった方は多いと思います。コナン・ドイルの小説『失われた世界（ロスト・ワールド）』の舞台としても知られています。

テーブルマウンテンの上の生物は、2億年以上前の Gondwana 大陸に広く分布していたものが、Gondwana 大陸が分裂移動した後も熱帯にとどまり、標高差1000mの絶壁に阻まれて麓の世界とは全く異なる、独自の進化をとげてきたものと考えられています。

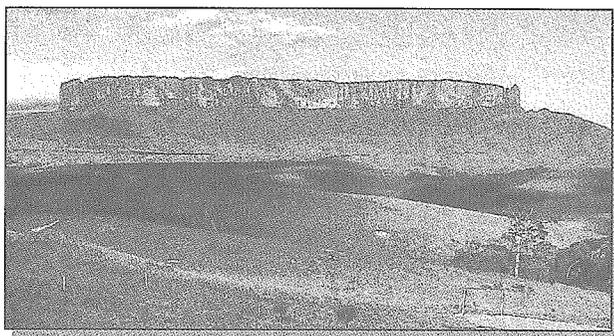
例えば植物は4000種。日本全体よりも多く、その75%が固有種です。生物学的に他地域から隔絶されていることで知られているガラパゴス諸島の固有種が53%であることを考えると、いかに独自の進化を遂げた環境であるかがよくわかります。

では、鳥類はどうでしょうか。

今までギアナ高地について紹介されたテレビ番組や写真集などで、麓付近はともかく、山上については、私は鳥に関する報告を見たことがありません。世界中の鳥に詳しい旅行社のベテランガイドも、「山には、アブラヨタカくらいしかいないでしょう」と言っていました。私もそう思っていました。ところが実際行ってみたら、思いがけなく鳥の生息が確認できたのです。その経緯を報告します。

●1種類目

鳥はいなくてもいいから、その世界的に特異な自然環境に触れてみたいと思って、テーブルマウンテンのひとつロライマ山（標高2810m、写真右上）のベネズエラ側の山上にヘリコプターから降り立ったのは、今年2月でした。

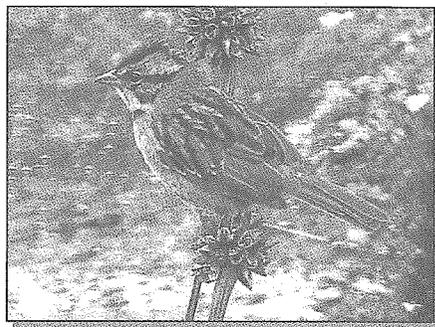


見慣れない植物と景色に心を奪われていると、動きの早い霧の向こうの岸壁に、ヒヨドリくらいの大きさ、黒っぽい鳥2羽が敏捷に動いているのが見えました。最初の出会いです。急いで双眼鏡を目に当てると、全体は青または黒っぽい色、下尾筒の赤褐色が目立ち、嘴は長め。見たことがない鳥です。間もなく霧が濃くなり、見えなくなりました。

かなり遠かったし、見えたのは短時間でした。もう少し長い間見えても、望遠レンズなしの手持ちビデオカメラでは、どうにもならなかったでしょう。上げられる荷物は一人10kgまで。鳥がいらないと思っていたものですから、望遠レンズと三脚は、麓に置いて来てしまったのです。

●2種類目

足元は歩きにくい岩の連なり。その間にとこるところ湿地状の堆積があります。油断するとあっという間に踏み込んで、膝までびしょ濡れです。世界遺産の貴重な自然生態系になるべく影響を与えないよう、植物を踏まないことにも、一歩ごとに気をつけなければなりません。



キャンプ地が近くなった時、地上の草の陰に動く別の鳥影が見えました。

ホオジロ科ミヤマシトド属アカエリシトド (Rufous-collard Sparrow、*Zonotrichia capensis*) でした。コスタリカや前回のベネズエラ旅行ですすでにお馴染みの、街中でも見かけることのある鳥です。

ここでは、キャンプ地の近くに数羽居付き、食料のおこぼれをねらっていました。人の足元にまで寄って来て、同時に最大7羽まで数えました。キャンプ地を離れた別な場所でも、座って食事をしているとすぐに現れ、人の顔を見えています。

● 3種類目

他にも鳥がいるかも知れない。ガイドに連れられて周辺の観察にでかけた一行と別れて、私は草木の多いキャンプ地に近い場所に留まりました。

周囲に人がいなくなって間もなく、黄色の花にとまり、種を食べている茶色の鳥が1羽見つけられました。黒の縦斑点が目立ちます。岩を回って少しずつ近づき、望遠レンズなしでも撮影できました。



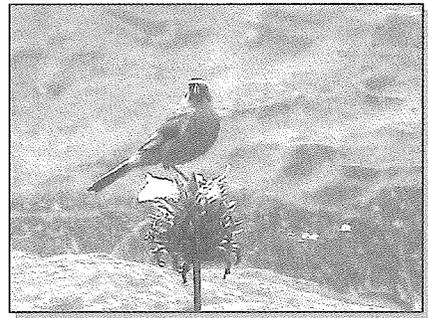
ホオジロ科タネワリ属コウゲンタネワリ (Paramo Seedeater、*Catamenia homochroa*) のメスでした。南米大陸北西部、ブラジル北東部およびアンデス山脈の一部に分布しています。

● ようやく最初の1種を撮影

山上にいられるのは2日間だけ。最初に見た1種が撮影できないうちに時間は過ぎ、帰りのヘリコプターが来る時間になりました。朝から時々雨が降り、ヘリコプターが近づこうとしては遠ざかる音が、深い霧の奥から何度か聞こえ

てきます。

やがて霧が晴れてきた時、近くの花の上にとまっていたのが、あの鳥です。ぎりぎりまで撮影できたことを喜ぶ暇もなく、なんだか誰かがあらかじめ書いたシナリオみたいな成り行きだなと思いながら、ヘリコプターに乗り込みました。



ホオジロ科ハナサシミツドリ属のオオハナサシミツドリ (Greater Flower-piercer、*Diglossa major*) でした。ギアナ高地テーブルマウンテン群の標高 1650mから 2800m付近にのみ生息する固有種です。

● ほかに3種も

その後入手した『A traveller's reference Guide-Map of Mount Roraima (By Emilio Perez and Adrian Warren)』によれば、ロライマ山には、更に次の3種も生息しているようです。

ロライマエメラルドハチドリ (ハチドリ科エメラルドハチドリ属、Roraima Emerald Hummingbird、*Campylopterus hyperythrus*)
オニギクタイランチョウ (タイランチョウ科シラギクタイランチョウ属、Great Elaenia、*Elaenia dayi*)

クロビタイコバシハエトリ (タイランチョウ科コバシハエトリ属、Black Fronted Tyrannulet、*Phylloscartes nigrifrons*)

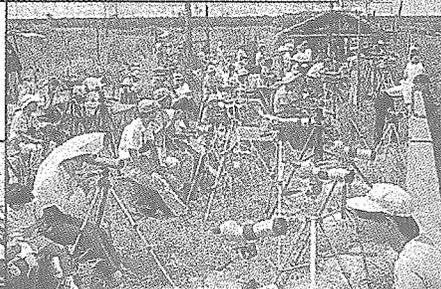
この内、ロライマエメラルドハチドリについては、該当する英名が図鑑や世界鳥名事典などに見当たりません。学名から索引すると別な鳥が出てきます。とりあえず和名は私の直訳で、科属名は推測で記載しておきますが、違う鳥かもしれません。また、現地ガイドは他にも鳥がいる様な事を言っていました、それも確認できませんでした。

世界は広いことを、また少し実感できました。

20周年記念昔々の写真集

1984年4月24日に200名余りで発足した当支部は、おかげさまで20周年を迎えました。今後ご支援をお願いします。

関東近県支部合同探鳥会 (谷津干潟)



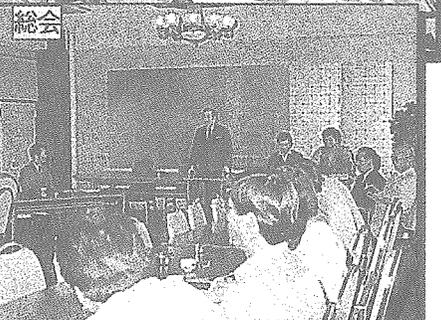
1984年5月6日最初の探鳥会 (浦和市秋ヶ瀬)



リーダー研修会



寄居町探鳥会



アズ熊谷でのパネル展



大麻生探鳥会



大宮駅でのパネル展



袋づめの会

対馬にかんこ鳥を探して

喜多 峻次 (小川町)

かんこ鳥とは「カッコウドリの訛か。閑古鳥は当て字でカッコウのこと。かんこ鳥が鳴くとは、物寂しいさま。商売などのはやらないさまを言う」と『広辞苑』にあります。

先年、井出孫六著『日本の風景を歩く』(大修館書店刊)を読んでいた時、「対馬の旧藩主宗家の菩提寺万松院に諫鼓(かんこ)があり、これに鳥が止まって鳴いているさまは、なんとなく物寂しいことから、『かんこ鳥が鳴く』という形容が生まれた」そうです。当時、校正作業の合間に某副支部長にこの説を話したら、ふうんという感じであまり関心を示されませんでした、なんとなく気になっていました。

去る3月末に博多へ出張する機会があり、行って帰ってくるだけではつまらん、対馬にも仕事を作ろう。時間があつたらついでに諫鼓のことを確かめてみよう。で、行ってまいりました。フグには遅くトリには未だ早い季節ですが仕事ですからやむをえません。

江戸期鎖国下、出島での貿易以外に、対島藩だけは朝鮮との交易を幕府から認められていました。かなりの利益を得ていたようですが、国際間の政情に疎い幕府と、対島を属国視する誇り高い李朝朝鮮との間にあって、国書改竄、將軍印偽造など離れ業を演じていたことは、田代和生著『書き替えられた国書』(中公新書)、上垣外憲一著『雨森芳洲一元禄享保の国際人』(同)に譲ります。

長崎県に属する対島の人々は、かつて飛行



諫鼓です

機もフェリーも無かった時代、県庁へは船で福岡県博多に上がり、佐賀県を通って長崎へ行く2日がかりの行程だったそうで、今は羽田からのジャンボ機に比べるとまことに頼りない飛行機ながら、フワッと舞い上がるとベルトをはずす間もなく玄界灘を越えて着陸態勢に入り、絶海の孤島に降り立ちました。

合併して全島一市になった対島市巖原町の郷土資料館に寄り、絶滅したキタタキの剥製標本を見て、目指す万松院はその先の小高い山の麓にありました。『魏志倭人伝』に対島は「山険しく 深森多く 道路は禽鹿の径の如し」と記されている、三世紀の姿そのままであろうシイ、カシ、タブなどの鬱蒼とした照葉樹に囲まれた境内右手、50°角の台座の上直径24°高さ142°の円柱に、諫鼓は乗っていました。一部欠けていたため昨年擬石で修復が成され、その時の修理図に拠ると、朝鮮半島産とみられる砂岩造り、筒状直径28°長さ36°円面の表に右三つ巴紋が陽刻、裏面は皮が張れるようにくり抜かれています。「人民が天子を諫めるために朝廷の門外に置いた鼓。人民がそれを打てば役人が意見を天子に取り次ぐ」と諸橋漢和辞典にあり儒教の教えで、諫鼓の使われないことは、善政が遍く施されていた証しに通じるでしょう。しかし、上意下達を旨とする天子(藩主)にとっては目障りな存在で、民が諫鼓を打つとすればかなり勇気が要りますし、それを取り次ぐ役人に度量が無ければ諫鼓の意義は失われます。監視が厳しく民の近づくことさえかなわぬ圧政が布かれ、諫鼓に鳥が止まっていたら『広辞苑』の字解にぴったりです。保護のためでしょうが、民が近づけぬよう木柵で囲んである現状には笑ってしまいました。

しばらく見入っていると、不思議なことに皮を張られた形跡が無い、背後の扉とは50°の間隔しか無くこれでは撥を持って打てない。住職は「諫鼓苔蒸す平和の象徴ではないか」との談。ならば藩邸の門外に置かれるべき諫鼓が、歴代の藩主がより善い後世を願



宗家墓所に至る道

い眠る、人里離れた菩提寺の庭に置かれていることに肯けます。そういえば、柳田國男、宮本常一氏ら民俗学者の著作にも、司馬遼太郎著『街道をゆく一巻岐対島の道』にも諫鼓は登場しません。取るに足りない物なのだろうか。宗家は鎌倉中期から明治維新に至るまで、日記諸記録書簡状などを残しています。対島歴史民俗資料館に収蔵されているその『宗家古文書』を読み解けば、由来経緯が判るかも知れませんが、数十万点に及ぶ膨大な古文書の山を見せられましたら、その希望は絶望に変わりました。

明治から昭和にかけて軍に全島要塞化され、文化や産業の発展が著しく阻害されたことも一因で、今も巖原町内に残る武家屋敷街の、頁岩を横積みした厚さ30センチ高さ2メートル、長く続く石塀の迫力は、山口県萩の武家屋敷街を凌ぐ大規模なもの、朝鮮通信使接遇時の豪華さの記録、そして132段の石段を登って宗家歴代墓所の石組みを見ますと、加賀藩前田家の墓所に劣らぬ壮大さで、当時の対島藩の経済力がいかに豊かだったかを感じさせます。加えて、対島藩では一揆が一度も起きなかったと聞けば、海を越える渡り鳥が羽を休めて囀る、のどかな光景が浮かんできませんか。

江戸初期、四公六民が年貢の常でしたが、過酷な治世が島原の乱の引き金になったり、和歌山藩は八公二民まで絞りあげた歴史を思い起こしますと、朝鮮経由で中国から伝わった諫鼓は、対島で止まり本土に伝わっていない理由が解るような気がいたします。「カンコォ？ ぞけんな」なんて言われて。それでも、いつ頃から“閑古鳥”と言葉が変わった

のかを、いずれ検証してみたいと思います。

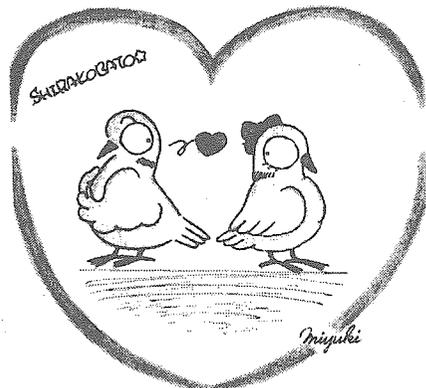
1か0か、十か一か、黒か白かと決着を迫るデジタルな文明ですが、さまざまな多様性と解釈が許容される、アナログな文化を享受したいと願う者の一人として、おおらかな対島の風を胸一杯に吸って、島を離れました。

え？ 仕事？ ついでにしました。

銚子港探鳥会

大塚 一男 (坂戸市)

日本一のカモメの名所・銚子港探鳥会に初参加しました。天気は2日間とも、風弱く快晴の中、22名がバスで一路銚子へ。1日目の波崎港へスムーズに到着。ウミネコを教してもらい、次にセグロカモメ、オオセグロカモメが識別できました。午後は千人塚に移動して観察。ミツユビカモメ、ユリカモメをじっくりと観察。2日目は、宿から近くの魚市場付近での探鳥です。シロカモメ、ワシカモメを教えられながら何とか確認できました。珍しい、赤い嘴のミヤコドリ、見分ける事の難しいカナダカモメ、他にコクガン、クロツラヘラサギ、シノリガモにも出会う事が出来ました。その後、犬吠埼に場所を変え、灯台を囲む台地で、真冬にしては暖かい太陽と海風を感じながら、のんびりとウオッチング、最高でした。今回は泊まりがけならではのゆったりとした観察が出来、又、ちょっぴり観光気分も味わえて楽しく過ごせました。人との出会い、顔と名前が少しずつ一致する楽しみ、色々な楽しみに乾杯！



『しらこぼと』第2号から



野鳥情報

さいたま市見沼区大谷環境広場 ◇2月7日、タシギ4羽、イカルチドリ2羽、コチドリ2羽。2月9日、タゲリ4羽、タシギ5羽、イカルチドリ3羽（鈴木紀雄）。

さいたま市桜区秋ヶ瀬公園 ◇3月9日、子供の森で、飛び去るヒレンジャク2羽。他にルリビタキ♂1羽。3月16日、ヤドリギ付近でヒレンジャク10羽十（鈴木紀雄）。

さいたま市緑区芝川調整池 ◇3月16日、コブハクチョウ成鳥2羽幼鳥1羽（鈴木紀雄）。

久喜市菖蒲公園 ◇2月13日、昭和池で約400羽のキンクロハジロの中、ようやくトモエガモ♂2羽確認。スズガモ数羽（鈴木紀雄）。

岩槻市長宮 ◇2月22日午前、農道脇でホオアカ1羽。3月4日昼過ぎ、近自然工法の護岸の用水沿いでホオアカ2羽十。コンクリートでなく、メッシュで押さえてあるので草が育ち、餌と水がある。3月17日午前、近自然工法護岸でホオアカ1羽。ソフトボール場北のコンクリート3面張の用水で餌を探すタシギ4羽（鈴木紀雄）。

岩槻市岩槻公園 ◇3月4日、相変わらずのルリビタキ♂1羽とオジロビタキ1羽。3月10日にも同様に確認。3月13日も同様（鈴木紀雄）。

岩槻市岩槻文化公園 ◇3月5日、ウグイスのへたな「ホーホケキョ」初鳴き。カシラダカ夏羽に（鈴木紀雄）。

岩槻市馬込 ◇3月5日、赤坂沼で刈られた葦原をクイナが走る。やがて間に合わず低空飛行で葦の中へ（鈴木紀雄）。

蓮田市黒浜 ◇2月23日、療養所内のブッシュでマヒワ約5羽、陽を受けて、あまりの

黄色の鮮やかさに息をのんだ。2月25日、東縁ブッシュ帯でルリビタキ♀タイプ1羽、人目にせず、開けた所で採餌。西縁でトラツグミ1羽、体を揺さぶる独特の行動を見せてくれた。ほんとに地中のミミズたちを驚かせているの？ 3月5日、療養所内でトラツグミ2羽。マヒワ、ルリビタキは声のみ。3月13日、上沼でオシドリ♂1羽、カルガモ、コガモ、キンクロハジロ♂、バン、オオバン、カイツブリ、コチドリ2羽、ベニマシコの声。3月17日、療養所周辺の小さな流れにクイナ1羽。松林でアオゲラ♂1羽、シジュウカラの群れとともにヒガラ1羽（鈴木紀雄）。

春日部市内牧 ◇3月13日、宮代側でオオタカ若鳥が赤い肉をつかんで森の中へ。ルリビタキ♂1羽（鈴木紀雄）。

渡良瀬遊水地 ◇2月14日、コミミズク2羽がミヤマガラスの群れにモビングされ上空へ。ミサゴ2羽、コチョウゲンボウ3羽、チュウヒ5羽、ハイイロチュウヒ♂3羽十♀2羽（鈴木紀雄）。

本庄市本庄北高校裏の利根川 ◇3月3日、カワアイサ♂3羽♀7羽、周りにはカワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ。みんな魚グルメのお仲間か？（町田好一郎）。

神川町 ◇3月4日、県営「アカシアの湯」裏の河川敷でアオジ、カシラダカ、オオジュリンがいっぱい。それにベニマシコ♀1羽。3月6日、同所の雑木林でキレンジャク3羽、「チリリ」と鳴きながら何やら丸い実を啄ばんでいた（町田好一郎）。

吹上町荒川河川敷 ◇3月12日午前10時30分頃、麦畑でタゲリ約15羽。大芦橋を上流側と下流側に別れて、上流側に5羽、下流側に10羽程いました（黒野ふき子）。

表紙の写真

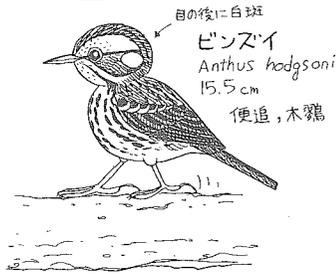
ヒレンジャク（スズメ目レンジャク科レンジャク属）

写真を見た人たちが、「この鳥は太りすぎだ、絶対に飛べないだろう」と言う。でもちゃんと飛んでいましたよ。食べているのは、キツタの実。ヤドリギよりも好きらしい。キツタの実がなくなると、ヤドリギの実を食べることが多い。秋ヶ瀬公園の毎年春の人気者。極東のみに生息し、学名 *Bombycilla japonica*、英名 Japanese Waxwing。ともに「日本の」という言葉が入っている。

写真と文：蟹瀬武男（さいたま市）



行事案内



(富士鷹なすび)

「要予約」と記載してあるもの以外は、予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章をした担当者に遠慮なく声をおかけください。私たちがあなたを探していますので、ご心配なく。参加費は、一般100円、会員と中学生以下は50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋。もしあれば、双眼鏡などの観察用具も(なくても大丈夫)。

解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後1時頃。悪天候のときは中止。小雨決行。できるだけ電車バスなどを使って、指定の集合場所までお出でください。

加須市・はなさき公園探鳥会

期日：5月2日(日)

集合：午前8時45分、東武伊勢崎線花崎駅南口、または午前9時はなさき公園駐車場。

交通：JR宇都宮線大宮8:06→久喜8:26着にて、東武伊勢崎線春日部8:21→久喜8:34発に乗車、花崎8:41着。

担当：中里、玉井、長嶋、田村、宮下、四分一、伊藤(隆)、栗原

見どころ：若葉の梢でホオジロが胸を張りさえずり、アシ原からはさわやかな風ののり恋歌が広がる。上空にはコアジサシの涼やかな舞が見られ、足元では小さな花々の宴が盛っている。土手を歩きながら、この時季を我が物としてください。

千葉県習志野市・谷津干潟探鳥会

期日：5月5日(水・祝)

集合：午前9時30分、JR京葉線南船橋駅改札口付近。

交通：JR武蔵野線武蔵浦和8:34→南浦和8:37→南船橋9:25着(武蔵野線から直通)。

担当：杉本、手塚、長谷部、菱沼(一)

見どころ：アオサに負けないシギ・チドリ類がやってきてくれます。長旅の途中、疲れをいやす鳥たちに声援を送ってください。

蓮田市・黒浜沼探鳥会

期日：5月5日(水・祝)

集合：午前8時45分、JR宇都宮線蓮田駅東口バス停前。

担当：玉井、田中、中村(榮)、吉安、菱沼(一)、長嶋、長野、松永、榎本(建)

見どころ：ゴールデンウィークの最後の日、元荒川の川島橋をスタートとして黒浜沼までの広い田んぼで、ムナグロの群れを探します。今年はどんなシギが混じっているのでしょうか。加えてコアジサシ、セッカ、オオヨシキリなどの夏鳥たちも待っていますよ。

長野県・白馬山麓探鳥会(要予約)

期日：5月8日(土)～9日(日)

4月号をご覧のうえ、至急申し込みください。

神泉村/城峯公園周辺探鳥会(要予約)

期日：5月8日(土)～9日(日)

4月号をご覧のうえ、至急申し込みください。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：5月9日(日)

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷9:11発、または寄居8:49発に乗車。

担当：中里、後藤、和田、森本、石井(博)、倉崎、高橋(ふ)、藤田、栗原、飛田、

大澤、新井(巖)

見どころ：青葉若葉のすばらしい大麻生、土手を吹き抜ける風にも花の香がします。アシ原からはオオヨシキリが高らかに恋歌をうたい、皆さんを呼んでいるかのように聞こえてきます。今日も楽しく歩きましょう。

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：5月16日(日)

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

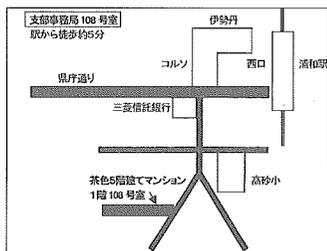
担当：楠見、福井、手塚、倉林、渡辺(周)、若林、兼元、森(力)、清水、小菅、新部

見どころ：今年も斜面林に緑が繁り、代用水には利根川からの命の水が流れている。田んぼには連休中に植えられた水田が広がる。三室の探鳥会も今年で20年、今回はこの歴史を考えながら探鳥したいものです。元気な皆さんのお出かけをお待ちしています。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：5月22日(土) 午後3時～4時ころ

会場：支部事務局108号室



長野県・戸隠飯綱高原探鳥会(要予約)

期日：5月22日(土)～23日(日)

定員に達したので締め切りました。

狭山市・入間川定例探鳥会

期日：5月23日(日)

集合：午前9時、西武新宿線狭山市駅西口。

交通：西武新宿線本川越8：43発、所沢8：36発に乗車。

担当：長谷部、高草木、中村(祐)、山本(真)、久保田、山本(義)、石光、山田(義)

見どころ：埼玉県支部のバードウォッチングの拠点は県内です。野鳥も身近な鳥たちです。ゴールデンウィークに遠出をした人も、しなかった人も皆いらっしやい。拠点に戻って楽しみましょう。

2003年埼玉県内鳥見ランキング結果発表普及部

観察鳥種数部門、探鳥会参加数部門ともに、昨年のディフェンディングチャンピオンである、藤澤洋子さんと鈴木敬さんが2年連続チャンピオンになりました。

藤澤さんは昨年 141 種から7種上乘せの148 種、海鳥を除きまんべんなく稼がれています。探鳥地は地元志木市、秋ヶ瀬、彩湖と普通に行ける場所で丹念に観察されている様子がうかがえます。

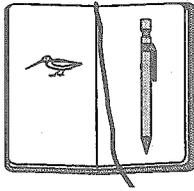
鈴木さんは昨年の平均週1回を上回る 59 回参加と、これも驚異的な記録とともに、観察種も 133 種と堂々第2位となっています。

2003年観察鳥種数ランキング

順位	鳥種数	観察最終	氏名
1位	148種	12月25日	藤澤洋子
2位	133種	12月21日	鈴木 敬
3位	118種	12月28日	新部泰治
4位	115種	11月15日	玉井正晴
5位	109種	11月23日	田邊八州雄
6位	106種	12月1日	高橋達也
7位	97種	12月3日	逸見 險
7位	97種	12月29日	榎本秀和
9位	89種	10月8日	田所 勇
10位	64種	11月29日	橋口長和

2003年探鳥会参加ランキング

順位	参加回数	探鳥地数	氏名
1位	59	30	鈴木 敬
2位	48	27	新部泰治
3位	38	17	藤掛保司
4位	32	18	水谷真人
5位	25	17	田邊八州雄
6位	21	14	青木正俊
7位	19	12	藤澤洋子
8位	12	5	橋口長和
9位	10	7	榎本秀和
9位	10	7	田所 勇
10位	5	5	大久保健二郎
11位	2	2	石井ゆかり



行事報告

1月12日(月、休) 戸田市 彩湖

参加: 70人 天気: 晴

カイツブリ カンムリカイツブリ カワウ ゴイサギ コサギ アオサギ カルガモ コガモ ヨシガモ オカヨシガモ ホシハジロ キンクロハジロ ミコアイサ オオタカ ハヤブサ バン オオバン タゲリ イソシギ ユリカモメ セグロカモメ キジバト ヒメアマツバメ ヒバリ ハクセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (39種) 風のない良い天気に恵まれて出発。すぐそばの池でミコアイサ♂1♀2をじっくりと全員で。彩湖ではカモが少なく探るのが大変。空ではオオタカ2羽、ハヤブサ、ヒメアマツバメ等が見られた。終了近くにヨシガモ♂3♀2が出てリーダーは助かった。

(倉林宗太郎)

1月18日(日) 長瀬町 長瀬

参加: 31人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ オシドリ マガモ カルガモ コガモ ヨシガモ オナガガモ トビ ノスリ コジュケイ キジ イカルチドリ イソシギ キジバト カワセミ アオゲラ アカゲラ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ トラツグミ シロハラ ツグミ エナガ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ ベニマシコ イカル シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (43種) まずはジョウビタキ♂。河原に行きカモ、セキレイ、カワセミ等を見るが、目当ての鳥は今日はいない。途中でトラツグミが上空を飛ぶ。再度河原に下りて戻る途中にオシドリが見られた。ベニマシコ♂をゆっくり見てから、アオゲラ、ノスリで締めくくりとなった。

(佐久間博文)

1月18日(日) さいたま市 三室地区

参加: 51人 天気: 快晴

カワウ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ コガモ オナガガモ バン ユリカモメ セグロカモメ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシブトガラス ハシボソガラス (35種) 今年も楽しい三室の探鳥会がスタート。仲良く、楽しくのモットーで開催する。今月の探鳥会も快晴で光の中に小鳥達がよく観察出来た。カワセミさんも土管の上でお昼寝していた。

(楠見邦博)

1月24日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 12人

伊藤泰一郎、江浪功、海老原教子、大坂幸男、尾崎甲四郎、島田沙織里、島田貴子、志村佐治、藤野富代、増尾隆、松村禎夫、水谷真人

1月25日(日) 蓮田市 黒浜沼

参加: 72人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ゴイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ オカヨシガモ オオタカ バン オオバン タシギ キジバト カワセミ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (37種) 一般参加者が多く、子供も7名が参加してくれて今まで最高の72名になり驚いた。黒浜沼上沼、芦原、雑木林と農村風景を楽しみながら鳥を探した。定番の鳥に加えて、沼では久しぶりのオカヨシガモと人気者のカワセミが喜ばせてくれた。好天気にもめぐ

まれて気持ちよい探鳥会であった。(玉井正晴)

1月25日(日) 狭山市 入間川

参加: 32人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ トビ オオタカイカルチドリ イソシギ セグロカモメ キジバト ヒメアマツバメ カワセミ アオゲラ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ビンズイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (44種) 最近あちこちで珍しい鳥が出て賑わっているらしい。しかし、ここ入間川ではいつもどおりの探鳥会。ヒメアマツバメ、カワセミ、アオゲラなど3時間ほどで44種もの鳥が確認できた。遠くの珍鳥もいけど、近くの探鳥会も楽しい。(長谷部謙二)

1月31日~2月1日(土~日) 千葉県 銚子港

参加: 22人 天気: 両日とも晴

カイツブリ ハジロカイツブリ ミミカイツブリ カンムリカイツブリ ウミウ ヒメウ コサギ アオサギ クロツラヘラサギ コクガン マガモ カルガモ ヨシガモ オカヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ ホシハジロ スズガモ シノリガモ トビ ミヤコドリ キョウジョシギ イソシギ ユリカモメ セグロカモメ オオセグロカモメ ワシカモメ カナダカモメ シロカモメ ウミネコ ミツユビカモメ キジバト ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ ジョウビタキ イソヒヨドリ アカハラ ツグミ メジロ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (48種) 二日間とも穏やかな日和が続いた。まずは波崎漁港で群がるカモメ類に目を慣らす。図鑑と首っ引きで「あーだ、こーだ」と楽しい時間が流れてゆく。カナダカモメにクロツラヘラサギ、コクガン、ミヤコドリも出て、盛りだくさんの探鳥会だった。(榎本秀和)

2月1日(日) さいたま市 民家園周辺

参加: 74人 天気: 曇

カイツブリ カンムリカイツブリ カワウ ゴイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ オカヨシガモ オナガガモ ハシビロガモ ホシハジロ キンクロハジロ ミコアイサ ノスリ チョウゲンボウ バン オオバン イカルチドリ ユリカモメ セグロカモメ キジバト ヒバリ ハクセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (42種) 久しぶりの差間コース。工事が落ち着いたためか、カモ類が9種観察できた。広大なアシ原が残っていた場所は、めまぐるしく環境が変わり、芝川第一調節池完成図の看板を見ると、この日歩いた場所はすべて水の中に沈む予定である。(手塚正義)

2月8日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 30人 天気: 快晴

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ コバクチョウ マガモ カルガモ コガモ ヨシガモ オナガガモ ホオジロガモ トビ オオタカ ノスリ キジ キジバト カワセミ アオゲラ アカゲラ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ トラツグミ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (44種) 冷え込む朝だが日差しがまぶしい。土手道をたどって行くうちには、ぼっかぼかの探鳥日和となる。オオタカやノスリの雄姿をはじめ、鳥合わせをしたら44種にもなって「い〜探鳥会だったな」と自画自賛。(榎本秀和)



ツルシギ (菱沼一充)

連絡帳

●ツバメと鳥インフルエンザ

「ツバメの巣は落とした方が良いでしょうか」という一般の方からの問い合わせ電話が、支部事務局にもありました。もちろん、「落とす必要はありません」と答えました。

本部の『会員室通信3月号』では、

- 1, ツバメなど野鳥から人への感染例はありません(前月号の本欄参照)。
- 2, 繁殖の時期には、インフルエンザは終息して行くと思われれます(ウイルスは高温多湿の気候では寿命が短く空中を漂うことが少なくなり、つがいごとの生活になって鳥同士の接触も少なくなります)。
- 3, 気になる人は、巣の周りを清潔に(ウイルスとは別に、糞がたまるとダニなどが増えたりすることもあるので、糞受けを置いて時々掃除した方が良いでしょう)。

と呼びかけています。

●評議員会に出席

3月13日日野市WINGで開催された評議員会に、評議員として橋口長和、監事として海老原美夫が出席。橋口が評議員会幹事会幹事に選出され、楠見邦博が理事を退任、海老原が監事を退任して理事に就任することが決まりました。

●普及活動

昨年11月16日から本年3月21日まで5回にわたり、蓮田市黒浜沼周辺など4カ所で開催された蓮田市中央公民館バードウォッチングで、66名の登録参加者に対し、田中幸男、玉井正晴、中島康夫、長嶋宏之、吉安一彦の5名が指導。開始以来10年目でした。

●『野鳥』誌5月号1万人プレゼント

心と体の健康に役立つバードウォッチングの楽しみ方を特集した5月号(4月20日発行)を、希望の方に送料も無料でプレゼントします。「①住所 ②氏名 ③電話番号 ④性別 ⑤生年月日 ⑥職業 ⑦どこでこのプレゼント企画を知ったか」を明記して、はがき、FAX、Eメールでお申し込みください(電話での受付はしていません)。申し込み先:住所FAXとも、下記本部の連絡先と同じで、係り名は「(財)日本野鳥の会5月号プレゼント係」。Eメール:shiryu@wbsj.org

●5月の事務局 土曜と日曜の予定

- 1日(土) 普及部会議。研究部会議。
- 8日(土) 6月号編集作業。
- 15日(土) 6月号校正(午後4時から)。
- 16日(日) 役員会。
- 22日(土) 袋づめの会(開始時間が午後3時からになりました)。

●会員数は

4月1日現在2,485人です。

活動報告

- 3月13日(土) 4月号校正(大坂幸男、岡安征也、工藤洋三、志村佐治、藤掛保司、山田義郎。12日に海老原美夫も)。
- 3月21日(日) 役員会(司会:藤掛保司、各部の報告・新役員候補など)。
- 3月22日(月) 支部報だけの会員向け、4月号を郵便局から発送(倉林宗太郎)。

編集後記

『しらこぼと』も創刊20周年を迎えました。それを記念して表紙をリニューアルしてみました。いかがでしょう。3月号でお願いした『しらこぼと』の思い出原稿、引き続きお待ちしております。(山部)

しらこぼと 2004年5月号(第241号) 定価100円(会員の購読料は会費に含まれます)

発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 郵便振替 00190-3-121130
〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号
TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 <http://www.bekkoame.ne.jp/ro/wbsj-saitm/>
編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com

住所変更退会などの連絡先 〒151-0061 渋谷区初台1-47-1 小田急西新宿ビル1階
(財)日本野鳥の会 会員室会員グループ TEL 03-5358-3511 FAX 03-5358-3608

本誌掲載記事はホームページに転載されます。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。再生紙を使用しています。印刷 関東図書株式会社